

2016年4月24日川越教会

衣を白くしてくださる小羊

加藤 享

【聖書】ヨハネの黙示録7章9～17節

この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。」

また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、こう言った。「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にありますように、アーメン。」

すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。」

それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。

【序】封印が開かれると

私たちは、聖書の一番最後の書ヨハネの黙示録を学び始めています。黙示とは「隠されている秘密を明らかにする」ことです。神がこの歴史の終局をどのように締めくくろうとしておられるのかが、神の手から渡された巻物の封印を一つ一つ開いていくかたちで、示されていきます。

今日は第4回目——天に於いては、私たちが生きているこの地上とは違って、神の御座の周りを四つの生き物と24人の長老たちが囲んで、主なる神に絶え間なく賛美と祈りを捧げて礼拝が行われています。神は右手に巻物をお持ちです。一人の天使が叫びました。「この巻物を開くのにふさわしい者はだれか」。しかし誰もいないのです。その有様を見てヨハネは激しく泣きました。

すると十字架の傷痕を身におびた小羊が御前に現れて、神の右手から巻物を受け取りました。そこで四つの生き物と24人の長老たちは、神と小羊とに新しい賛美と祈りを捧げて礼拝しました。その様子が先週の第5章の内容でした。

第6章では7つの封印のうち**6つの封印**が、神の小羊によって次々と開かれていきます。**第一の封印**が開かれると、冠をかぶり弓を持つ騎手の乗った**白い馬**が現れます。強い軍事力で他国を侵略していく帝国主義の象徴です。次に大きな剣を持つ騎手の乗った**赤い馬**。内戦や反乱で人々を苦しめる象徴です。**黒い馬**は飢饉を、**青白い馬**は疫病・死をもたらす象徴です。

私たちは主の祈りで「**み国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ**」と祈ります。天に於いては、**神のみこころ**があまねく行われていますから、日々に賛美と祈りが捧げられていて、**喜びと平和**に満ちています。しかし私たちの罪が満ちているこの**地上**では、神がみこころを行おうとされると、それを受け入れない**混乱**が、戦争や内乱、自然界の変異、飢饉、疫病等の現象となって発生し、死と滅びをもたらします。このような**滅亡的状态**、即ち**神の裁き**を受けなければ、**神のみ国**は地にもたらされないのです。

ところが**第五の封印**が開くと、**殉教の死**を遂げた人々の叫びが起こりました。「真実で聖なる主よ、いつまで**裁きを行わず**、地に住む者にわたしたちの血の復讐をなさないのですか。」するとその一人一人に**白い衣**が与えられ、殉教者の数が満ちるまで、**なおしばらく静かに待つように**と告げられました。

そして**第六の封印**が開かれると、誰も耐えることの出来ない**天変地異**がもたらされます。地上の王たちも富む者も、また奴隷も自由人も、山と岩に向かって、自分たちを覆ってこの激しい怒りから守ってくれと叫ぶほどの、神と小羊の**大いなる怒りの日**が臨んだのでした。

[1] 世の終わりが来る

主イエスは、十字架に磔られるためにエルサレムに上られた時、**豪壮な神殿**の崩壊を予告して「一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない」とおっしゃいました。神殿が**完全に崩壊**するのです。弟子たちは驚いてそっとお尋ねしました。「そのことはいつ起こるのですか。あなたが来られて**世の終わるときには、どんな徴**があるのですか」。主はお答になりました。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。しかし、これらはすべて、**産みの苦しみの始まり**である。そのとき、あなた方は**苦しみを受け、殺される**、——そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。——しかし最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そして御国のこの**福音**は、あらゆる民への証しとして、**全世界に宣べ伝えられる。それから終わりが来る**」

(マタイ 24 : 1 ~14)

私たちは5年前の**東日本大震災**の被災者を覚えて、今日もお祈りしました。先週発生し、今なお激震が続く**熊本の大地震**で10万人が避難生活の苦しみにあえいでおられます。つい先日は南米の**エクアドル**で死者600人の地震が、その前の週はミャンマー西部でも発生しました。**内戦、テロの爆破事件**等々でも、各地で多数の命が奪われています。ヨーロッパに逃れようとした中東の難民が、海上で船を乗り換えろと言われて、1000人が溺れ死にました。**飢饉飢餓**による死者も各地に絶えません。**混乱、苦しみ**はもともっと増えていくのではないのでしょうか。私たちは**大変な世の中**に生きているのです。

札幌時代に、教会の近所の豪華なマンションに住んでいる人から激しい抗議の電話がかかってきたことがありました。**最後の審判**だとか**地獄の滅び**だとか**不吉なパンフレット**を郵便受けに入れるとは非常識だ、という怒りからでした。他の団体の誰かが配ったのでしょうか。

でも皆さん。不愉快になるから聞きたくないといっても、私たちは皆、**神の裁きの座**に立たなければなりません。学生に試験は付き物です。会社や商店で決算や棚卸をしない所などありません。とすれば私たち**一人一人**も、与えられた人生を**どう生きたか**を問われて、清算しなければならないのは当然です。「人間には **ただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることとがさだまっている**」(ヘブライ 9 : 27) と聖書にははっきり記されています。

【2】おびただしい殉教者

さて今日の**第7章**に進みます。このような激しい神の怒りが天変地異となつて行われているうちに、一人の天使が現れて、**しばらくの平穩**を与えよと大声で呼びかけました。そしてイスラエルの各12部族の中から12000人ずつ計144000人を選んで、その額に**神の僕であるという刻印**を押しました。彼らは旧約聖書が証しする**真の神**の御心に聞き従い、救い主**メシアの到来**を真剣に待ち望む信仰者でした。大勢だなと思ってしまうですが、イスラエルの民の成人男子の1割程度ではないのでしょうか。10人に一人、すると9人は滅びるのです。

続いて、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から、数えきれないほどの**大群衆**が集まって来ました。彼らは皆**白い衣**を身に着け、手に勝利を喜ぶ**なつめやしの枝**を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫びました。「**救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と小羊とのものである。**」

すると天使たちも皆玉座の前にひれ伏し、**神を礼拝して**こう言いました。「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にありますように、アーメン。」

彼らは皆、世界各地で行われているキリスト教**迫害**によって、**殉教の死**を遂げた信仰者たちでした。十字架に磔けにされ、血を流しつつ、全ての人の罪を我が身に引き受けて死んでくださり、私たちが受けるべき罪の裁きを、贖って下さった**神の小羊イエス・キリスト**を、救い主として信じる信仰を捨てずに、殉教の死を遂げて行った信仰者です。

あらゆる国民の中に、数えきれないほどの殉教者がいたとは、キリストを信じる者への迫害が世界中に拡がっていくことを示しています。恐ろしいことです。この世界で信仰を貫くことは、**命がけの厳しいもの**なのだということを、私たちはよくよく自覚しなければなりません。

殉教者の**血染めの衣服**が、小羊の血で洗われて**白い衣**になっていました。不思議ですね。赤い血で洗われたら、血で赤く染まった衣になるはずですが、それが白くなるのは、十字架の死によって、彼らの罪が贖われ、罪汚れの無い**純白の身**にして頂けた**救いの恵み**の表現でしょう。なんと嬉しい恵みでしょうか。

信仰の故に迫害され、殺されていった人々は、この世では**敗北者**と見なされるでしょう。しかし天に於いては、**勝利者**として迎えられ、**神の御座のそば近く**で仕える者とされるのです。夏の暑い日照りから守られ、命の水を与えられ、苦しみや悲しみで流した涙も全部ぬぐい取っていただくのです。なんと嬉しい恵みでしょうか。

【3】世の終わりを見据えて

先程も引用しましたが、弟子たちが主イエスにお尋ねした質問は、「そのことはいつ起こるのですか。**あなたが来られて世の終わるときには**、どんな徴があるのですか」でした。世が終わるので主イエスがもう一度来られるのではなくて、イエス・キリストが**再び来られること**によって、世が終わるのです。**神の揺るがない支配・統治**を確立するために、イエス・キリストが来られて、神の支配を確立されるので、**神ならざる者が支配しているこの世が終わるのです**。

私たち夫婦は 1995 年 5 月から約 10 年間シンガポールで暮しました。日本は

1941年12月8日早朝にハワイの真珠湾攻撃で大東亜戦争を開始したが、その1時間半前に日本軍はシンガポールを目指してタイからマレー半島に突入を開始し、翌年2月15日にシンガポールを占領しました。そして中国人市民を4万人以上虐殺しました。

エリザベス・チョイ夫人は、憲兵隊に逮捕され、193日間拘留されて、水攻め・電気ショックの拷問を受けました。戦後50年、90才を超えた夫人の証をクリスチャン集会で聞きました。「**イエスさまは、もっと酷い十字架の死の苦しみを**つぶさに味あわれたのです。そのイエスさまが**必ず来て下さって裁いて下さると**信じて、**祈りつつ待つ**信仰のおかげで、生き抜くことが出来ました」

そうです。日本軍の悪の支配は**3年半**で終わり、威張り散らしていた者たちが逆転してチャンギ刑務所に入れられ、軍事裁判にかけられました。日本人墓地の片隅には、絞首刑になった**BC級戦犯146名**の小さな石の墓標が立って居ます。彼らも上官の命令で残虐行為を実行したばかりに、責任を取らされた気の毒な人たちですが。

主イエスはおっしゃいました。「**今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる**」。「**今笑っている人々は、不幸である、あなたがたは悲しみ泣くようになる**」(ルカ6:21, 25)。私たちは**現在だけを見て**生きてはなりません。主イエスは**再び来られる**のです。その時に**喜ぶ者**にならなければなりません。

【結】世界宣教の大切さ

世の終わるときについての主イエスの答の中で、もう一つの大切な言葉に注目して、終わりにします。「**そして御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る**」(マタイ24:14)

十字架の福音が全世界のあらゆる人々に宣べ伝えられたら、主イエスの再臨があるのです。ですから十字架の死から三日目の朝、復活された主イエスは、復活すらもよく信じられないでいる弟子たちにお命じになりました。「**全世界に行って、全ての造られたものに福音を宣べ伝えなさい**」(マルコ16:15)

「**全ての人**が信じる者になったら、再び来る」とはおっしゃっていません。私たちが**全世界に福音を宣べ伝えたら、終わりが来る**のです。全ての人**が**十字架の福音を聞いて、自分の生き様を反省し、神の裁きに臨む心構えを整えた上

で、キリストの再臨を迎えさせる——**神の愛のご配慮**ではないでしょうか。

ですから私たちは、世界のあらゆる人々に、**何はさておいても**福音を宣べ伝えなければなりません。家族や身の回りの人に、福音を伝えて行かなければなりません。牧師、伝道者になる、またその人々を祈り、支える。それと同時に、宣教師となって世界宣教に献身する、あるいはその人を祈り、支えていかなければなりません。

そして「アーメン、主イエスよ来て下さい」と祈り、**天の御国**が一日も早く**もたらされる**ことを祈り求めて参りましょう。

祈ります：主なる神さま、私たちが川越という天変地異の少ない地で暮している恵みを心から感謝いたします。厳しい境遇にある多くの方々が、その苦しみから救い出されますよう、お助け下さい。あなたの御心がいきわたっている天では日々に賛美と祈りが捧げられ、喜びと平和が満ちあふれています。しかしこの世界では、信仰者は迫害を受け、命を奪われさえしています。殉教者に、純白の衣を着せ、み傍近くに招いて下さって居る恵みを感謝します。主よ、早く来て下さい。そのために、福音を世界の全ての人に知らせていく宣教に励むものにして下さい。「人間には ただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることとがさだまっている」この言葉を心に刻んで、証しする者にして下さい。神の小羊イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン